

第三セクター等経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

| | | |
|---------|---------------|-------|
| 当初作成年月日 | 平成31年 | 3月20日 |
| 改正年月日 | 令和5年 | 2月13日 |
| 施行年月日 | 令和5年 | 4月1日 |
| 作成担当部署 | 宇佐市安心院支所産業建設課 | |

2 第三セクター等の概要

| | |
|-------|---|
| 法人名 | 株式会社 朝霧の庄 |
| 代表者名 | 代表取締役 埜中 正樹 |
| 所在地 | 大分県宇佐市安心院町下毛828番地の2 |
| 設立年月日 | 平成13年 5月30日 |
| 資本金 | 10,500千円 【当該地方公共団体の出資額 5,000千円(47.6%)】 |
| 業務内容 | 地域食材供給施設 レストラン部門：地域食材を使った料理提供 売店部門：地域特産物、農産加工品の販売 |

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社朝霧の庄は平成13年に旧安心院町において設立され、平成17年3月に旧3市町合併により新宇佐市が誕生した後、旧町の第三セクターであった同社を引き継いだ。

主な事業として、平成18年からは指定管理者制度によって安心院旅行村内にて地域食材を利用した食材を提供するレストラン部門及び地域特産物や農産加工品を売店で販売している。利用者数が当初予想より少なかったことや、冬場の閑散期における誘客対策が具体的に図れなかったこと。またレストラン、売店におけるメニュー、商品の原価率が高く、利益率が向上していないことも大きな要因で、当初から債務超過の状態が続いている。

経営健全化については、平成25年度に宇佐市第三セクター経営検討委員会における検討結果に基づく「経営健全化に関する提言」により、同施設の行政目的を見直すとともにコスト削減や販売強化により債務超過の解消に向けて取組んだ結果、平成29年度において一旦は単年度黒字となった。また平成30年度には「第三セクター等経営健全化方針」を作成し、さらなる健全化に向けた取り組みを進めてきた。

しかしながら、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴いインバウンド需要の激減等から厳しい経営状況となり、国や市の支援を受け、時短営業や経費削減等の経営努力をおこなっているものの、令和3年度決算において約45,000千円の累積赤字を抱えている。また、施設の維持管理面について、近年老朽化による施設修繕や設備更新等が頻発しており、今後の維持管理費に係る市の負担増大も懸念されるところである。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

株式会社朝霧の庄は、隣接する安心院葡萄酒工房と並び安心院地域観光の基幹施設かつ、シンボリックな存在として、地域における雇用の場確保にも大きな役割を果たしており、設置当初から、当法人が継続的に管理運営を行っている。

本施設は、地域振興を図るうえで今後さらに重要になってくると考えられることから、現体制で存続することが必要と考え、本方針に基づき債務超過の早期解消など抜本的改革に努める。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

第三セクターの経営は、原則として自助努力により行われるべきであることから、市としては、経営健全化のために法人が自発的に実施する以下の改善方針・具体的な対応等について、出資割合の範囲内において、適切な助言・指導等を実施し、支援していくこととする。

① 営業形態の転換及び販売の維持、拡大

- ・ 団体客をメインターゲットにしていた営業形態から、個人利用客をメインターゲットにした営業形態への転換を図る。席数を減らしゆったりとした食事スペースを確保すると同時に、プライベートな空間を確保できる店内への改装を行う。
料理メニューは特産物を活かしたコースメニューの提供に力を入れる。
また、冬場（閑散期）の利用客増加に向けた期間限定メニューの提供を行う。
- ・ 2023年春開業予定のグランピング施設とイメージを共有し、葡萄酒工房で生産された「安心院ワイン」を飲みながらレストランで提供する食事メニューを楽しむ空間を演出する。

② 雇用形態・勤務形態の見直し

- ・ レストラン及び売店における業務について適正な人員配置と作業分担の効率化を図る。
- ・ グランピング施設と労働力を共有することにより、アイドルタイムを有効に活用できる仕組みを作り持続可能な経営基盤の構築を目指す。

③ 家族旅行村・安心院葡萄酒工房等の相互協力体制の確立

- ・ 観光施設の拠点と位置づけ、家族旅行村施設のリニューアルとあわせて一体的に施設整備を行っていくとともに、家族旅行村エリア内の他施設との情報交換を積極的に行い、観光客誘致に向けた連携を図る。
- ・ 安心院葡萄酒工房の「新酒祭り」、「樽開き」など家族旅行村エリア内の他施設イベントに合わせた限定メニューや割引券・商品券の検討など、利用客誘致に向けた相互利用促進の手法等について検討する。

6 法人の財務状況（参考）

| | 項 目 | 金 額（千円） | | | | |
|---------|--------------------|----------|----------|---------|---------|---------|
| | | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 貸借対照表から | 資産合計 | 16,276 | 14,917 | 14,740 | 20,191 | 11,879 |
| | （うち現預金） | 6,277 | 4,372 | 1,917 | 9,419 | 2,059 |
| | （うち売上債権） | 2,333 | 2,520 | 1,063 | 941 | 899 |
| | （うち棚卸資産） | 6,315 | 6,311 | 5,556 | 4,943 | 4,870 |
| | 負債合計 | 24,250 | 25,407 | 31,202 | 50,813 | 56,953 |
| | （うち当該地方公共団体からの借入金） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 純資産合計 | △7,974 | △10,490 | △16,462 | △30,622 | △45,074 |

| | 項 目 | 金 額（千円） | | | | |
|---------|-------|----------|----------|---------|---------|---------|
| | | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 損益計算書から | 経常収益 | 131,490 | 127,705 | 108,541 | 52,648 | 47,615 |
| | 経常費用 | 130,856 | 130,038 | 114,331 | 66,625 | 61,879 |
| | 経常損益 | 634 | △2,333 | △5,790 | △13,977 | △14,264 |
| | 経常外損益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期純損益 | 452 | △2,516 | △5,972 | △14,159 | △14,453 |